

自治体
の紹介

背景

- 佐賀県の西南部に位置し、東は有明海、西は多良岳に囲まれた森里川海干潟が広がる自然環境に恵まれた都市。市域面積112.12km²を擁し、県南西部の中核都市。
- 平成27年のラムサール条約登録を機に、環境省の「地域循環共生圏」事業に取り組み、環境と産業を回す仕組みづくりを構築している。共に事業を行うSDGs推進パートナー制度を設立。事業に共感する80団体が参加している。

現状の
課題

- 豪雨により既存のダムや排水機場等の設備で雨水を処理しきれず、土砂災害や浸水、流木の被害が鹿島市内で増加している。ラムサール登録湿地である有明海干潟でも生物の繁殖期に多くの流木やゴミが流れ着き、生態系への影響が懸念される。
- 自然ダムの役割を果たす棚田の荒廃。



事業の 目的

- グリーンインフラ(G I)を活用した防災減災、森里川海干潟での取り組みにより、流域で一体的な生態系の保全を両立させ、鹿島の環境と文化を守る暮らしを実現させる。
- G Iの取り組みを持続的に進めるため、G Iに寄与する民間事業の立ち上げや展開を支援するプラットフォームを構築する。市民・地域企業・金融機関等による地域一体の取り組みにより、環境推進事業の創出都市を目指す。

事業 内容

企業のSDGsの取り組みを支援する「SDGs事業創出プラットフォーム」

- ・ 企業のグリーンインフラ等の地域環境課題に寄与する取り組み・事業を行政が支援し、市全体で解決を目指す「鹿島モデル」を構築。

地域の自然資源を活用した持続可能なグリーンインフラ事業の展開

- ・ 土砂災害や水害の軽減や耕作放棄地の利活用につなげるため、地元の酒蔵と棚田や水田の米を活用した日本酒を造ることで経済活性化と防災減災を両立する事業を立ち上げ、販売を支援した。
- ・ 干潟で、市民参加型の生き物の観察、環境教育等の保全活動を実施。



3年後の鹿島も守る酒「ごえん」

4 質の高い教育を
みんなに



8 働きがいも
経済成長も



13 気候変動に
具体的な対策を



14 海の豊かさ
を守ろう



15 陸の豊かさ
を守ろう



17 パートナースHIPで
目標を達成しよう



得られる
成果等

成果・解決される地域課題

● 防災減災に資する棚田面積の増加

- ・日本酒造りに加え、より広い面積の棚田の防災機能を構築するために米を使ったバイオプラスチックを製造する企業と新たに連携を開始。本年度はバイオプラスチック製の「おちょこ」を製作。市内で開催されるイベント「酒蔵巡り」で販売することで、試飲の度に捨てられていたプラスチック容器削減と利用棚田面積の増加に繋げ、砂防や治水効果のさらなる発揮を目指す。

● 地域金融機関との環境事業における連携

- ・金融機関の参画による事業の拡大を目指し、鹿島市のグリーンインフラ事業を推進するための検討会を開始。特に、ESG地域金融等の展開を目指し、鹿島の自然環境に対してのストーリー性をもった投資環境を実現し、SDGs事業の発展を狙う。

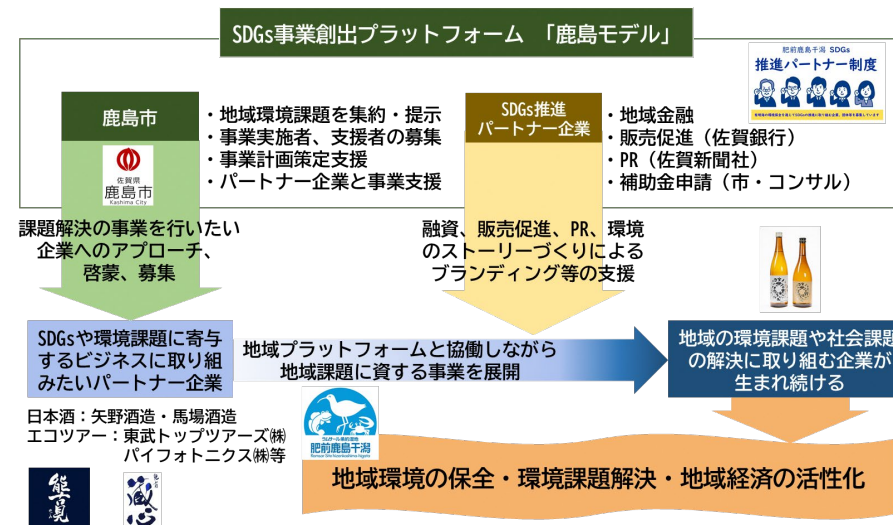
寄附を
する
メリット
等

企業のメリット/企業との連携イメージ

鹿島市が作った「鹿島モデル」から生み出される事業は、

「鹿島市の独自の環境評価指標により環境保全に有益であると認められた事業です。」

寄附により、3年後の鹿島も守ることができ、環境評価を成果として受け取ることがます。



連絡先 鹿島市役所 ラムサール条約推進室 室長補佐 江島 美央
 電話 0954-63-3416 faX 0954-62-3717
 メール mio-ejima@city.saga-kashima.lg.jp